

HEROES

CHAPTER 36

ヴィレツジ

Part 2 of 4

少年時代の“ハイチ人”は、父ギョームを崇拝して育った。強大な力を持つウンガン（司祭）だったギョームは村人を率い、卑劣で腐敗したハイチの民兵トントン・マクートに抵抗する。精神攻撃を巧みに操る“特別”な力に恵まれたギョームは、村人を守るヒーローだった。だが、それは“ハイチ人”自身が能力を表すまでのことだった…。

“トントン・マクート”が
去ってから24時間…

IT TAKES A VILLAGE

Part
2 of 4

父の力が消え、村を救えなくなってから24時間。
トントン・マクートは村の所持品、金、女たちを
意のままにしていた。

父を肉の塊のように
ふるしてから24時間。
男も、女も、子供たちも…
誰も彼を下ろそうと動かなかった。

彼の息子ですら。

…それは、私たちを
守れなかった父に
与えられた罰だった。
“ロアへの背信行為”
の罪…

村が受けた野蛮な行為や父への仕打ちは残酷だった
…だが、今も脳裏を離れず、血が凍る思いをするのは…

**JOE KELLY OF
MAN OF ACTION STUDIOS**

Story

STAZ JOHNSON *Art*

CHRIS SOTOMAYOR *Colors*

COMICRAFT *Lettering*

An INVISIBLE COLLEGE Production

父の目だった。



私の故郷では、被害者は哀れみの対象ではなかった。弱いのが悪いのだ。

罵倒されて当然だった。ロアと共に歩いていけば…

弱くなければ被害者になるはずなどないからだ。

村人たちに示さなくてはならぬ。皆のギョームは今もロアを背負って歩んでいることを。

そうだね…

オグンとレグバに生贄を捧げよう。



私のパワーは、これまで以上に強くなって戻る。それを村人たちに示すんだ。

そうだね、父さん。必要なものがあれば…



おまえは絶対についてくるな。私に近づいたら、

殺す

ど… どうして？

わかったな。

もちろん、分からなかった。ただ、私が心から愛してやまない神人が苦しんでいる…。彼を助けるためなら、何でもするつもりだった。

いやな予感がする。何か起こるか分かってんの？

わかってるよ。だから、ここまで来たんだ。

静かに！こいつが騒ぎ出すよ。



泣き声は聞きたくないよ。

大丈夫。

深く切りこまないで。

黙れよ。おまえを切るぞ。

…はい。



彼が必要としている
力を与えたまえ…

…再び完全に
したまえ。

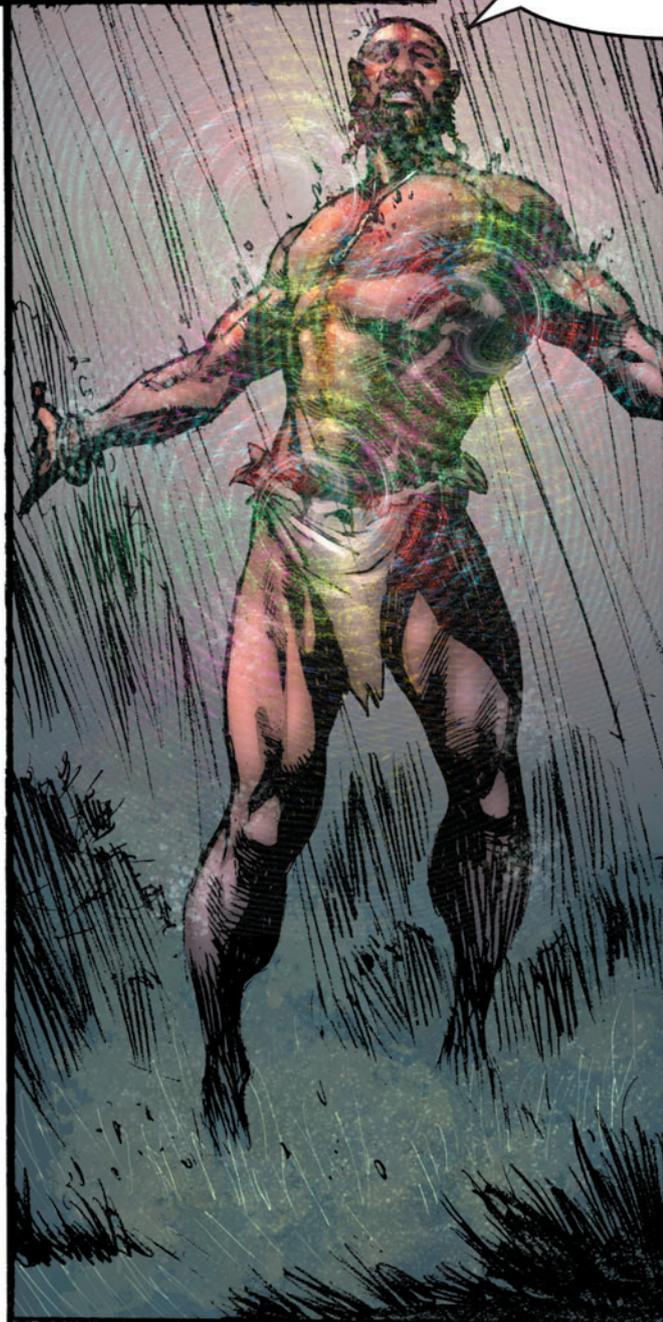


ギョームは
ロアの寵愛を失った!

ギョームに
トントン・マクトを
抑える力はない。

この毒を広めている者が、
我々の中にいるのだ!
我々を殺す人間が
ここにいる!

信仰心のない信徒を率いる
ウンガンなど何の意味もない。
皆は私の心臓を通る血液だ!
その血液がなければ…



ロアは餓死する!
だからこそ、
私に示すのだ!

信じていることを
このギョームに
示すのだ!!

うまくいったぞ!
見ろ!

誇りで胸が高鳴る。
…そして、安堵。
父が再び力を得た。
私たちを虐待した
あの男たちを探し出し、
痛い目にあわせてくれる!



そして、その時、
私は父の横にいる。



だがそのとき…

私の子供じみた期待は消え去った…

どうして…?

精霊が私たちを離れていく…

ギョームはごまかしだ!



おまえ!
なぜだ?!
なぜここに来た?!

父は分かっていた。
直感なのか、レグバのお告げか。
とにかく、彼は知っていた。



…どうやってか…
私がパワーを奪っていた。

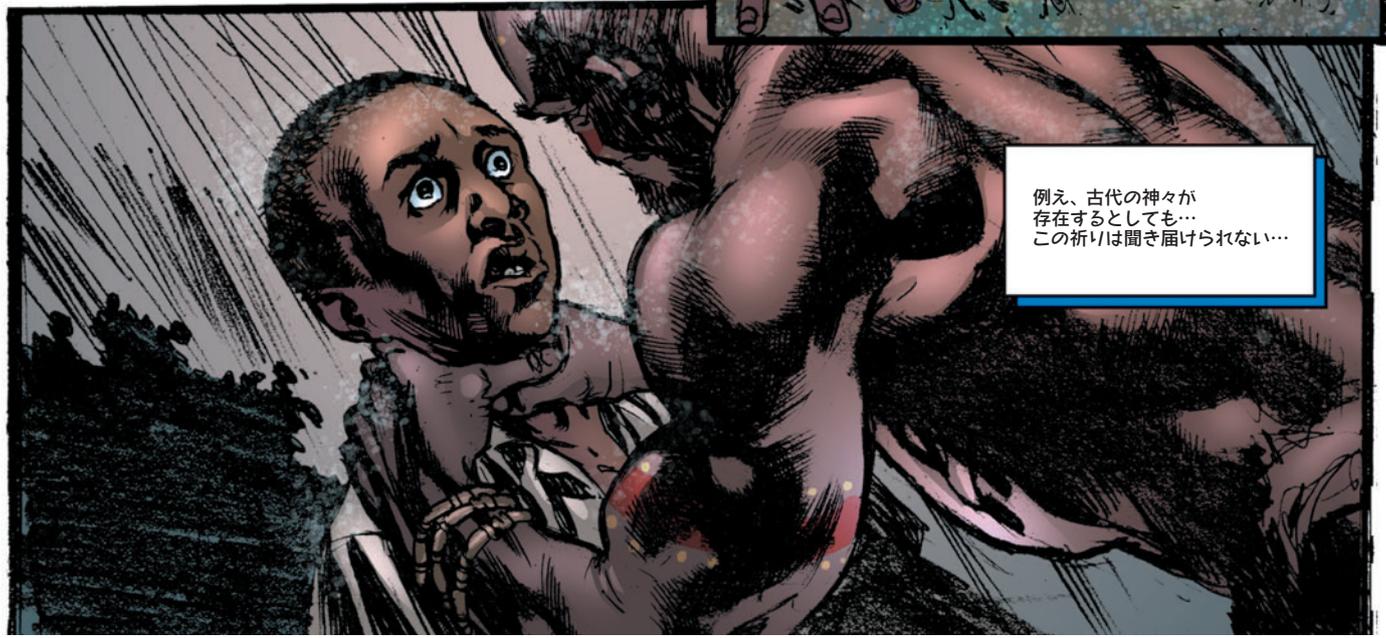
私のせいだった。

…これほど恥ずべきことはない。

父の鉄拳を受けるたびに…



…首が折れることを祈った。



例え、古代の神々が存在するとしても…
この祈りは聞き届けられない…



そのとき、
私の中から飛び出した…
…恥、恐怖、父への愛が
まるで指のように…
いや…

…十タのように…

彼らを取り巻く柔らかいものをすべてを
切り裂いていった。

何も残さず。

残ったのは抜け殻だけだった。



To Be Continued...